

上手になるのに必要なもの ～挨拶・整理整頓～

2022.12.5 校長 西谷 秀幸

先週の金曜日の朝、サッカーW杯のスペイン戦がありましたね。ドイツ戦のときのような大逆転での勝利！勝って良かったですね。

さあ、次は今日の夜12時、相手は4年前のロシア大会で準優勝したクロアチアです。日本は、ここで勝てばベスト8になり、新たな歴史を作ります。楽しみです。

さて、サッカーのW杯は、オリンピックと同じように4年に一度行われます。日本は、今では当たり前のようにアジアの予選を勝ち抜いてW杯に出場していますが、初めてW杯に出場したのは24年前の1998年フランス大会でした。ちなみに、同じく初出場で予選で戦ったのがクロアチアで、残念ながら日本は0-1で負けてしまいました。

フランス大会の4年前には、勝てば初めてW杯に行ける…という試合がドーハで行われたのですが、残り30秒で同点に追いつかれてしまい、W杯に出場できなかった「ドーハの悲劇」がありました。今の森保監督はその時に選手で試合に出ていたんですね。

サッカーは、今でこそとても人気のあるスポーツですが、W杯にも出場できなかった昔は、あまり人気がありませんでした。

でも、そんな人気なかった時代に、サッカー日本代表が、一度だけ世界で活躍したことがありました。今から54年前に、メキシコ・オリンピックで銅メダルを獲得したのです。そのときの監督は「長沼 健（ながぬま けん）」という人でした。



長沼さんはその後、日本のプロサッカーリーグ「Jリーグ」を作ることや、2002年にアジアで初めて行われた日韓W杯を行うことにも力を発揮した人です。今、サッカーがすごく人気のあるスポーツになり、そして、毎回、W杯に出場できるほど強くなったのは、この長沼さんのおかげだとも言われています。

その長沼さんが「サッカーが上手になるためには、2つのものが必要だ」と言っていました。では、皆さんは、サッカーがうまくなるには、いったい何が必要だと思いますか。

例えば、「練習」「チームワーク」「やる気」など、そんなようなことを思い浮かべた人が多いのではないのでしょうか。

この長沼さんの話を聞いて、「私たちの世界でも同じです。」と言った人がいました。それは、プロ野球の巨人というチームを9年連続日本一にした川上監督です。また、勉強で有名な日比谷高校の先生も、「私たちも同じです。」と言ったそうです。

長沼さんも川上監督も日比谷高校の先生も「うまくなる、できるようになるには、同じものが必要」だと言ったのです。サッカーでも野球でも勉強でも、上手になるのに必要なものとは、いったい何でしょうか。

それは、「挨拶」と「整理整頓」なのだそうです。

どうでしょうか。自分の考えたのと同じで、全く違っていただけないのでしょうか。

この話を聞いた後、長沼さんに「挨拶や整理整頓なんかできなくても、サッカーが上手になる人はいるんじゃないですか。」と聞いた人がいました。でも、これに対して、長沼さんは次のように答えたそうです。

いません！絶対にいません！！何千人という選手を育ててきましたが、サッカーが上手になる人は、必ず自分から「挨拶」ができ、「整理整頓」がきちんとできるのです。なぜだか、理由は分かりませんが…。

どんな世界でも、上手になる人、一流になる人は、「挨拶」と「整理整頓」が当たり前のようによくできるのです。

さて、皆さんはどうでしょうか。朝の正門で、学校の中で、家の人や地域の人たちに、自分から進んで挨拶ができているのでしょうか。

また、自分のロッカーや机、みんなが過ごしている教室、自分たちの部屋などは、整理整頓ができているのでしょうか。

サッカーや野球、勉強だけでなく、これから皆さんがたくさんのことを上手にできるようになるために、長沼さんがいうように「挨拶」と「整理整頓」ができる人になりましょう。

また、今日から学校整備週間が始まりますので、みんなで学校の中をキレイに整理整頓しましょう。

これで朝会の話が終わります。

(裏面に「先生方へ」があります)

〈先生方へ〉

先日は、校内研2年生の授業研究、ありがとうございました。生活科については、私自身もまだ勉強不足なところがあり、授業を通して今回も勉強させていただきました。「学び続ける教師は、学び続ける子供を育てる」これは、板橋区の中川教育長の言葉です。今年度の授業研究もあと1回ですが、今回学んだことをぜひ生活科を中心とした日常の授業に取り入れていきましょう。青木先生、2年生の先生方、ありがとうございました。

ちなみに、講師の石橋先生が、山本五十六の「やってみせ 言って聞かせて させてみて ほめてやらねば 人は動かじ」の話をされていましたが、この名言には、続きがあります。「話し合い 耳を傾け 承認し 任せてやらねば 人は育たず」「やっている 姿を感謝で 見守って 信頼せねば 人は実らず」生活科とは離れますが、児童や若手教員を指導する際には参考にしたいですね。

さて、4年に一度のサッカーワールドカップが始まり、日本代表は第2戦でコスタリカには負けたものの、決勝トーナメント進出がかかった優勝候補のドイツとスペインに逆転勝ちをして「ドーハの歓喜」と証される歴史的勝利をするなど、盛り上がっていますね。そこで、今回は、日本のサッカー界に大きな影響を与えた故長沼 健さんの話から「上手になるために必要なもの」について話題にしました。

「挨拶」と「整理整頓」は、過去に勤務していた学校では「挨拶」「集まり」「後始末」という「3つの『あ』」として指導していたこともあります。「当たり前のことを当たり前にする」ことは、プロの世界でも一流の人には必要不可欠な条件です。

今回の長沼 健さんの話は、長沼さんの「いません。絶対にいません」にインパクトがあります。「当たり前のこと10か条」とともに、年間を通して徹底できるように、学級などでの補足をしてください。よろしくお願いいたします。

今年度もあと3週間。残り授業日数は15日間となりました。冬休みはもう目の前です。最後のひとふんばりをよろしくお願いいたします。

【資料】 長沼 健（ながぬま けん） 略歴

- 1930年9月5日、広島県生まれ。関西学院大学卒業。
- 1953年、西独ドルトムント国際大学スポーツ週間（現ユニバーシアード競技大会）代表。
- 日本代表として、第16回メルボルン五輪（1956年）、第2回アジア競技大会（1954年／マニラ）、同第3回大会（1958年／東京）等に出場する。
- 国内では、古河電工の選手として、1961年度第1回年間最優秀選手に輝く。
- 1962年、32歳の若さで日本代表監督に就任。第18回東京五輪（1964年）、第19回メキシコシティ五輪（1968年）に監督として出場し、メキシコ五輪ではチームを銅メダルに導く。
- 技術委員長、専務理事、副会長を経て、1994年会長就任。1996年、FIFAワールドカップ初の共同開催（2002年日韓ワールドカップ）を決定する。
1998年、FIFAワールドカップ・フランス大会では、日本代表の初出場を果たす。
- 同時に、2002年FIFAワールドカップの日本招致委員会副会長、日本組織委員会副会長を務め、ワールドカップの招致と開催にも尽力する。
- また、日本サッカーリーグ常任運営委員、Jリーグ理事等を歴任。
- 日本体育協会副会長、日本オリンピック委員会委員、ユネスコ・日本フェアプレー委員会委員等を務め、広くわが国のスポーツ界の発展にも貢献する。
- 1990年、藍綬褒章、2004年、旭日中綬章。
- 2005年、第1回日本サッカー殿堂入り。
- 2008年 没